

## 松本 厚先生を偲ぶ

名誉教授松本 厚（まつもと・あつし）先生が、去る八月五日朝、逝去されました。（享年九十二歳）

先生は、昭和二十四年に広島文理科大学助教として来任され、昭和二十八年の旧制大学廃止に伴い、広島大学助教、昭和三十年同教授となられ、昭和四十二年に停年退官なさるまで、通算十八年間、本学において研究と教育に尽力されました。

先生のご専門は、古代ギリシャ哲学であり、特に自然哲学やソフィストの研究においては、我が国の権威者として学界に認められておりました。

私が先生の警咳に接したのは、先生の本学における最後の数年間であり、かれこれ三十年近い昔のことになります。ソクラテスもかくやと偲ばせるような、悠揚迫らぬ哲人の風格を漂わせておられました。先生が慌てられる姿を一度でいいから見てみたいというのが我々学生の密かな願いでありました。

むろんこれは、若い我々の間で、半ば冗談、半ば憧れをもって語られていたことですが、自分自身が次第に年を重ねるにつれて、そうした風格というものは、学問を真に自らの血肉となしえた者のみ備わるものなのだということが分かってきて、改めて先生の偉大さと自らの至たらなさを痛感するこの頃でありました。

先生のご逝去を悼み、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。  
文学部哲学科哲学講座 高柳央雄（たかやなぎ・ひさお）



## 追悼



## 但見嘉信事務長補佐のご逝去を悼む

但見補佐は、定年まで三年余りを残し、七月二十八日、帰らぬ人となられました。誠に哀惜悲痛に堪えません。

数年来、病と闘っておられるとは存じておりましたが、人前では明るく振る舞い、時折みせる大笑い、カラオケでの情感溢れるセリフ、麻雀での和了した時の顔、今でも目に焼き付いております。しかしながら内心は、さぞ辛く、苦しい日々であったことと思います。七月上旬に体調を崩され入院されましたが、こんなにも早くご逝去の悲報に接しようとは、ただただ人の世の無常を痛感しております。

但見補佐は、昭和三十八年広島大学に奉職され、以来三十三年余り大学行政に携わられました。その間、職場においては豊かな経験と温厚篤実なお人柄をもって、誠心誠意その職務を遂行され、上司、同僚、部下はもとより教官の信頼も厚く、多くの人に敬愛されておられました。

教育学部では、学部改革推進事務室長として、大学院教育学研究科の改組・再編、学部教育の改革に携わり、また、事務部の改革・合理化に向けて取り組まれていた矢先、突然病に倒られ、さぞ心残りであったかと思えます。補佐の遺志と教訓は多くの後輩たちの心の中に生き続けると思います。

補佐の精練潔白なお人柄を偲び、ひたすらご冥福をお祈りいたします。

教育学部事務長補佐 秋山吉功（あきやま・よしのり）